

16-shelf リノリウム棚板

組立・取扱説明書

組み立て前に必ず本書をお読みください。
組み立ては、安全な場所で行ってください。
組み立て後は、取扱説明書として大切に保管してください。

仕様			完成図	<div>組み立ては 安全な場所で</div>
外形寸法	高さ	138cm		
	間口	80cm		
	奥行	40cm		
棚板耐荷重		15kg/段		
カラー		・可動式棚板：ブラック／グレー／オリーブ ・可動式棚板以外：ブラック		<div>推奨作業人数 2人 ※1人でも可能です</div>
材質		・可動式棚：リノリウム練付合板（ベタ芯構造） ・可動式棚板以外：スチール（焼付塗装）		
備考		アジャスター付		

16-shelf (138×80×40)

必要な工具
六角レンチ
※付属品

安全にお使いいただくために（必ずお守りください）



人が死亡または重傷を負う
可能性が想定される内容

○収納物を棚から突き出して収納しないでください。荷崩れによってケガをすることがあります。

○ボルトのゆるみ、支柱の変形などの異常を発見したままで使用しないでください。製品が壊れてケガをすることがあります。

○廃棄するときは、自治体のリサイクル基準に応じて廃棄してください。

○地震等による万一の際の転倒・落下によるケガや製品の破損などの危害を軽減するため、転倒防止金具などを使って、固定することをおすすめします。



人が傷害を負う可能性及び
物的損害の発生が想定される内容

〈組み立て・設置について〉

○狭い場所での作業は避け、床や他の家具などに傷がつかないように十分なスペースを確保した上で、丁寧に組み立ててください。

○必ず純正部品を使ってください。純正部品でないと、十分な強度が得られません。

○必ず平らな場所へ設置してください。床が不安定だと、棚が転倒することがあります。

○棚板を踏み台代わりにしたり、上に乗ったりしないでください。

〈使用について〉

○棚板に耐荷重（15kg/段）以上のものを収納しないでください。棚板が変形や落下をしてケガをすることがあります。

○荷物は一か所に偏らず平均的に載せてください。集中荷重をかけると棚板に無理が生じて破損するおそれがあります。

○棚板に手足をかけたり、登ったりしないでください。棚板が落下してケガをすることがあります。

○棚板への収納物の積み下ろしは丁寧にこなしてください。棚板が外れてケガをすることがあります。

○本体の上に乗らないでください。転倒してケガをすることがあります。

○棚板などの塗装面には、傷をつけないよう注意してください。錆発生の原因となります。

○部品の位置（上下左右）を確認のうえ、正しく使ってください。部品を逆向きに使用するとケガをすることがあります。

○危険物（壊れ物、薬品、生物など）を収納しないでください。人や衣服などを傷つけることがあります。

○清掃をおこなう場合は、シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。塗装が変色したり剥げたりします。

○分解や改造をしないでください。破損やケガをすることがあります。

○乱暴な取り扱いや用途以外の使用は避けてください。ケガをすることがあります。

○製品に不具合や不明な点がありましたら、早めにご連絡ください。

〈リノリウム棚板の取扱いについて〉

○日々のお手入れは乾拭きをしていただくだけで十分です。

○ガラスの水滴や何かをこぼした際はシミになってしまうことがあるので、すぐに拭いてください。コースターの使用をお勧めします。

○水跡が残ってしまった場合は、水で濡らして絞ったふきんでよく拭き取ります。

○しつこい汚れには、弱酸性～中性の洗剤を薄めたものを布巾に含ませて拭き取ります。その後、水を固く絞った布巾で洗剤をしっかりと拭き上げてください。

○アルカリ性の洗剤や除菌剤は変色の原因になるため、避けてください。

○研磨作用のあるヤスリやメラミンスポンジの使用は避けてください。

○長期間のアルコール除菌の使用は様子をみながら行なってください。

製品の保証について

お使いの製品が保証期間内に、取扱説明書による正常なご使用状態のもとで不具合が発生した場合は、無償にて交換を致します。

万が一、不具合が発生した場合には、お問い合わせ先までご連絡ください。

1. 保証項目・保証期間

保証項目	不具合内容	保証期間
外観・表面仕上げ	塗装及び樹脂部品の変・褪色	1年
構造体	強度・構造体に関わる破損	1年

・保証項目は日本国内においてのみ有効とさせていただきます。

・保証期間は商品のお渡し日から起算し、一般家庭用（通常の状態）で使用された場合を想定して定めたもので、過酷な使用方をされた場合の保証期間ではありません。

・保証期間経過後の修理については、有償とさせていただきます。

2. 保証対象外

保証期間内でも次のような場合には、保証対象外となります。

・商品受領後の移動、落下、輸送等による故障、又は損傷

・屋外又は湿度の高い場所での使用による不具合

・改造や不当な修理または使用者の責任に帰すると認められる故障または損傷

・火災、地震、水害、落雷、その他の天災による故障、又は損傷

・本書に記載されている警告や注意事項を守らなかった場合

お問い合わせ先

問い合わせ先：STEEF カスタマーセンター

Mail: info@mysteef.jp

対応時間：月～金 9:00～17:00

（土・日・祝日・年末年始・夏季休暇等を除く）



STEEF

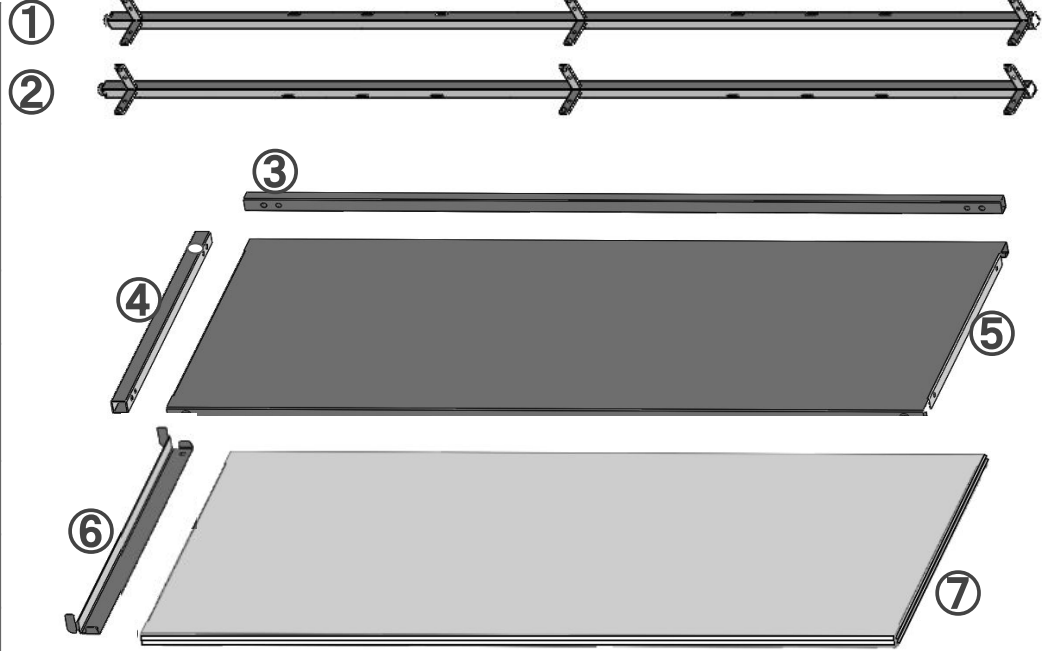
製造元 金剛株式会社



当社はあらゆる環境下における使用・点検のすべての危険を予測することはできません。したがって、本書に明記されている安全に関する内容は安全のすべてを網羅したものではありません。本書に書かれていない使用・点検はおこなわないでください。もしもおこなった場合の人身事故や故障については責任を負いかねます。

部品表

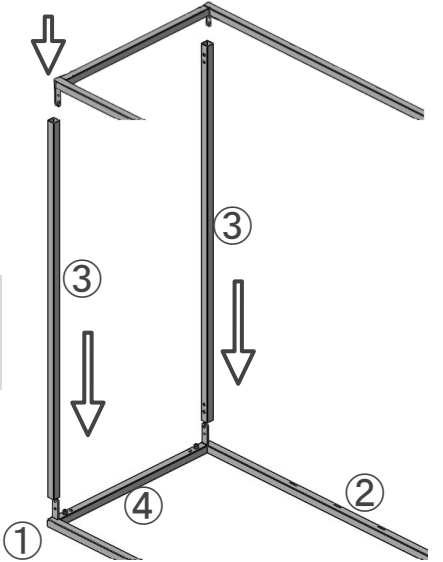
内容物	
① 支柱(左)	2本
② 支柱(右)	2本
③ 横幅角パイプ	4本
④ 奥行角パイプ (丸シール付き)	4本
⑤ 固定式棚板	3枚
⑥ 棚受	4個
⑦ 可動式棚板(リノリウム)	2枚



3

2で組み付けをしたフレーム体の残りのツメの部分に③横幅角パイプを差し込みます。
反対側にも①支柱(左)、②支柱(右)のツメの部分差し込み、支柱同士で③横幅角パイプを挟むようにボルトで組み付けます。

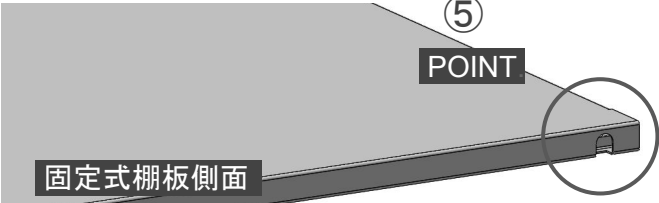
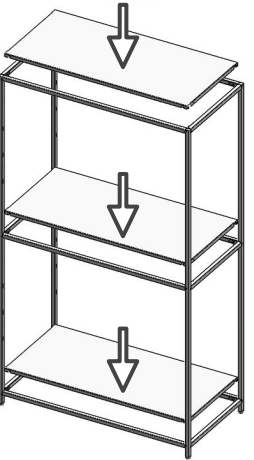
POINT まず仮留め(軽く締め付け)をし、**バランスを調整**した後に**本締め**(十分に締め付け)してください。



4

棚を起し、3で組付けた横幅角パイプがある高さ四角のフレーム)のところに固定式棚板を取り付けてください。

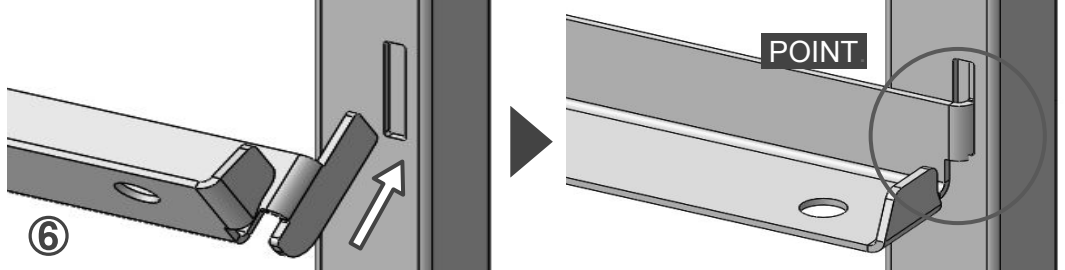
POINT 側面に下図のような切り込みがあるものが⑤固定式棚板です。



5

①支柱(左)、②支柱(右)の穴に⑥棚受を取り付けます。左右の⑥棚受は**水平になるよう**に取り付けてください。

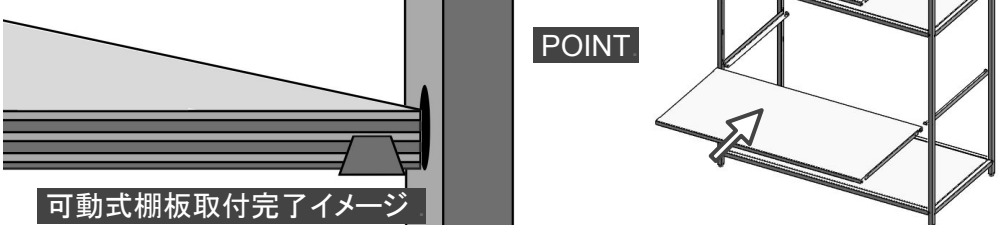
POINT 穴に挿入する際は⑥棚受を下図のように斜めにして取り付けてください。



6

⑥棚受に⑦可動式棚板(リノリウム棚板)を取り付けたら完成です。
棚がぐらつく場合はアジャスターを手で回し、調節してください。

POINT ⑥棚受のツメは⑦リノリウム棚板の前に出ます。



工程ごとの完成図

組立

組み立てによる床や壁への傷を防ぐため、養生をお勧め致します。

1

①支柱(左)、②支柱(右)の丸シールがある面を天井に向けて右図のように並べます。
①支柱(左)、②支柱(右)のお間違いには注意してください。

POINT ①支柱(左)、②支柱(右)を床に置き穴が真上を向き、柱の外側寄りにある状態(ツメが内側を向く)が正しい向きです。

2

④奥行角パイプ(丸シール付き)を①支柱(左)のツメの丸シール付部分に差し込みボルトで組み付けます。
すべての④奥行角パイプ(丸シール付き)を①支柱(左)に組み付けたら、②支柱(右)も同様に組み付けます。

[工程ごとの完成図]のように、2つのフレーム体ができます。

POINT ボルトで止める際は、まず仮留め(軽く締め付け)をし、**バランスを調整**した後に**本締め**(十分に締め付け)してください。

工程ごとの完成図

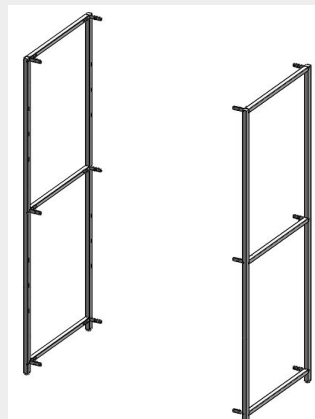


組み立て動画は
QRコードから

組立説明書補足資料

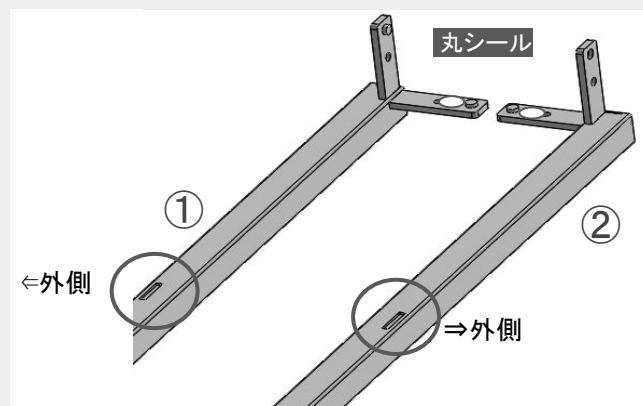
組立の大まかな流れです。詳細については【16-shelf組立・取扱説明書】をご覧ください。
本書では138×80×40cmのイラストを使用しています。

1

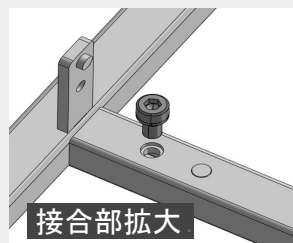
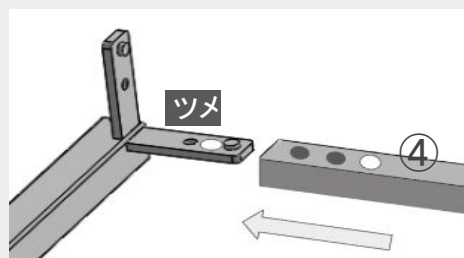


フレームを2つ作ります

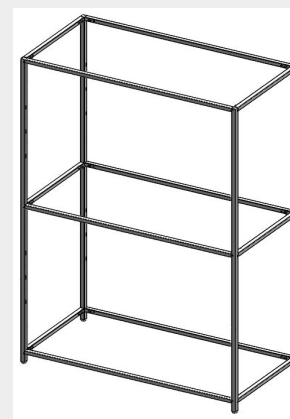
- 1 柱(①②)にある穴の位置を確認し、丸シールが天井を向くように下図のように柱を置きます。
※穴が外側方向に向くようにおいてください



- 2 丸シール付の奥行角パイプ(④)を丸シールが付いた支柱の「ツメ」に差し込みボルトで組み付けます。同じ方向のツメすべてに奥行角パイプ(丸シール付き)を組み付けたら、同じフレーム体をもう1セット作ります。

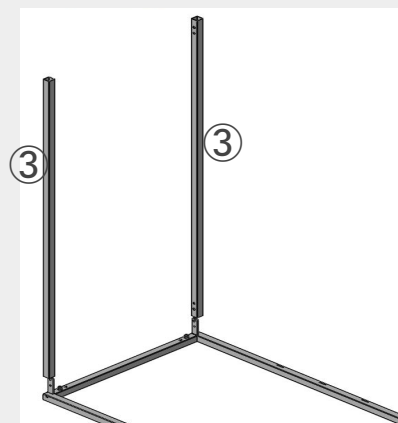


2

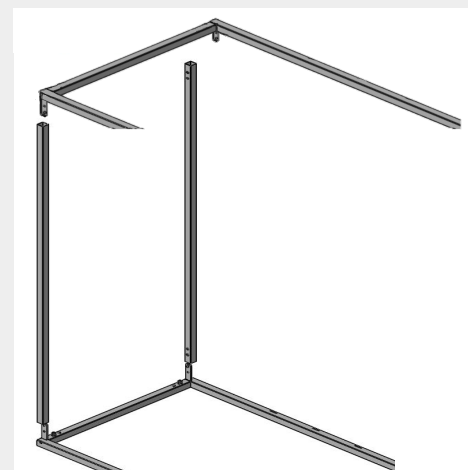


フレームを完成させます

- 1 ①で作ったフレームの1セット目の残りの「ツメ」に横幅角パイプ(丸シール無し③)の全てをボルトで組付けます。



- 2 奥行角パイプ(丸シール無し)を1セット目に組付けたらもう1セットのフレームを上から被せるようにしてツメを角パイプに入れボルトで組付けます。

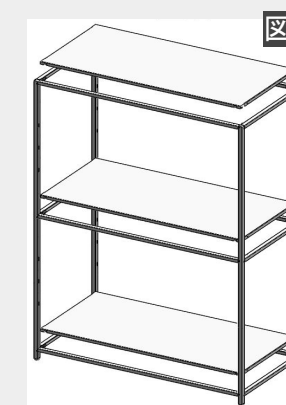
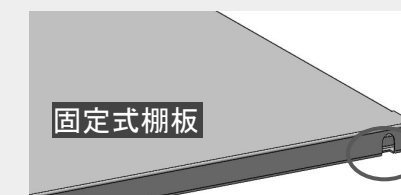


3

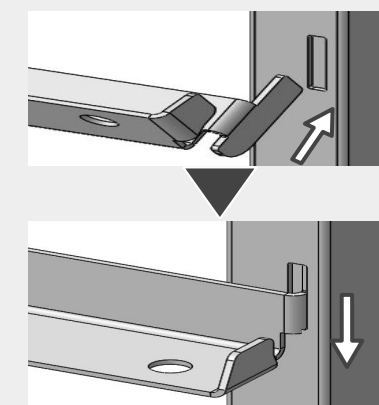


棚板類を設置します

- 1 図1のように、角パイプ③④でつくった四角のフレームがある箇所に固定式棚板(⑤)をはめます
※ ⑤の切かけがある棚板が固定式棚板です



- 2 棚板を設置したい位置の柱の穴に棚受け(⑥)を取り付けます。



- 3 棚受けを設置した位置に棚板(⑦)を取り付ければ完成です。
※⑥棚受のツメは⑦リノリウム棚板の前に出ます。

